



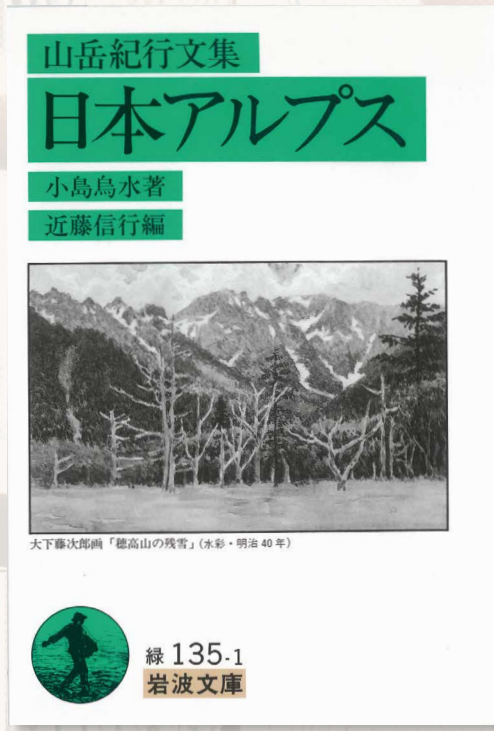
# おすすめの一冊 小島烏水『日本アルプス』

## 本

書は小島烏水による山岳紀行文集で、「鎗ヶ嶽探検記」（明治35年）、「山を讀する文」（明治36年）、「日本北アルプス縦断記」（明治43年）、「上高地風景保護論」（大正2年）などが収録されています。

烏水は横浜正金銀行に勤務していました。上高地のウェストン祭でご存じの方も多いかと思いますが、横浜在住のイギリス人宣教師で高名な登山家でもあったウォルター・ウェストンは、当時登山家として、また文筆家として世間にその名を知られ始めていた烏水を横浜正金銀行に尋ね、山岳会設立をすすめます。志賀重昂の『日本風景論』に感銘を受け登山に傾倒していた烏水は、武田久吉らと日本山岳会を設立、初代会長に就任し、日本近代登山の発展を牽引していくことになるのです。

登山愛好家の筆者は、『日本アルプス』をはじめとした小島烏水の著作に刺激され、深田久弥の『日本百名山』と田中澄江の『花の百名山』を携え、北は



大下藤次郎画「穂高山の残雪」(水彩・明治40年)



緑 135.1  
岩波文庫

『日本アルプス』  
小島烏水 著  
近藤信行 編  
岩波文庫

北海道から南は屋久島と日本百名山を踏破しました。そして台湾の玉山（旧称は新高山）にも。

ここで筆者が玉山に登ることになった経緯を少しお話ししたいと思います。私たち保健会館グループは、戦後寄生虫予防運動から始まり、家族計画、予防医学、母子保健、国際協力、社会保健活動を行ってきました。

学生時代、筆者が親父の勤務する朝日新聞社でアルバイトをしていた際に、

とあります。

保健会館グループは、寄生虫予防と家族計画を普及させるためのモデル地域として台湾を選び、高い成果を上げました。玉山の写真は、謝博士からそのお礼として贈られたものです。

その後、私たちは日中覚書協定で中国五名山の一つ衡山を有する衡山市で活動を展開していきました。日中国交正常化前のことです。国交回復後は中国国家生育委員会が中国各省に順次モデル地区を作り、筆者も専門家とともに日本の経験を紹介しつつ各地を訪れました。保健会館1階の國井長次郎の胸像は、中国国務院から協力支援への感謝記念として贈呈されたものです。

百名山の後、70代で登頂した富士山より高い玉山は、筆者にとって101番目の名山。ちなみに、烏水は横浜正金銀行サンフランシスコ支店在任中に米国マウントレーニアに登頂しています。縁あって筆者もマウントレーニアトレッキングに80歳で参加しました。

## 原澤 勇

はらさわ いさむ

東京生まれ。公益社団法人母子保健推進会議理事長。1961年日本家族計画普及会（現日本家族計画協会）に入職。保健会館グループにて家族計画、予防医学、母子保健、国際協力などの活動に携わる。公益社団法人日本山岳会会員。